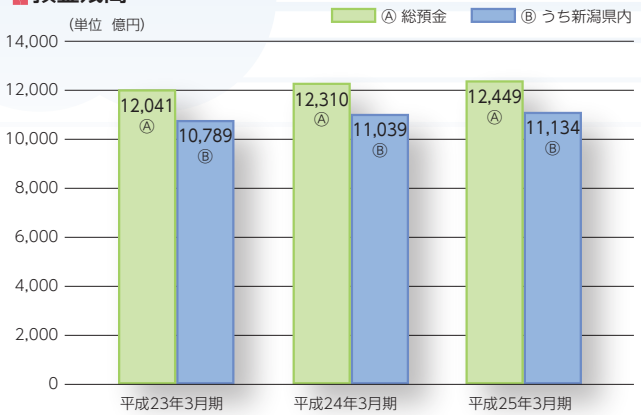
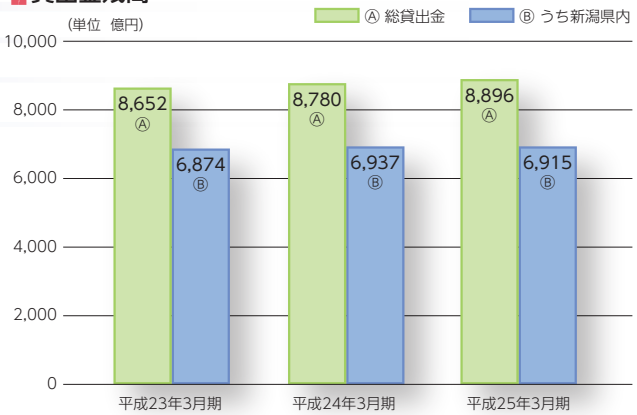
平成25年3月期決算の概要

預金残高



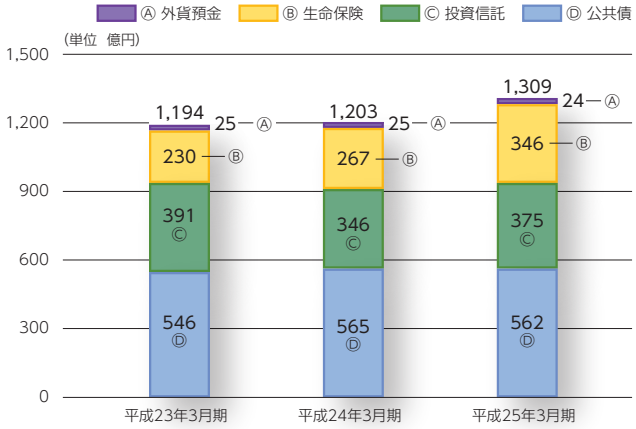
預金残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年同期比139億円増加の1兆2,449億円となりました。
新潟県内預金残高は1兆1,134億円、県内預金比率は89%です。

貸出金残高



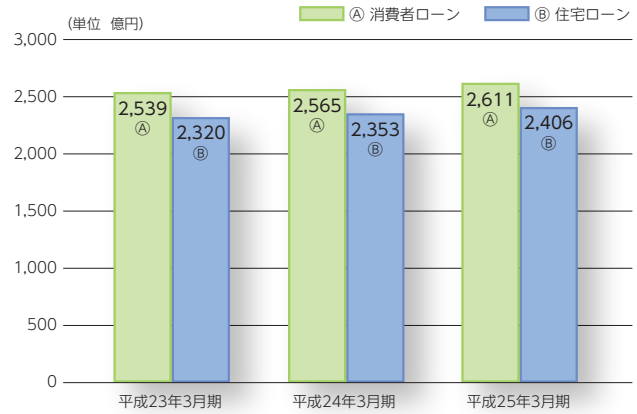
貸出金残高は、個人向け貸出や地公体向け貸出が増加したことなどから前年同期比116億円増加し、8,896億円となりました。
新潟県内貸出金残高は6,915億円、県内貸出金比率は78%です。

預り資産残高



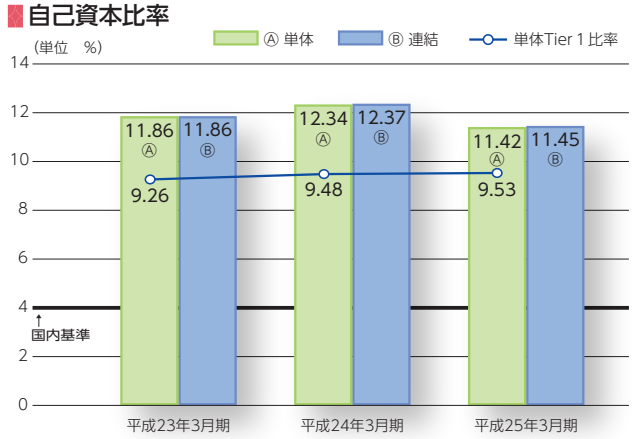
預り資産残高は、生命保険や投資信託が順調に増加したことなどから前年同期比106億円増加し、1,309億円となりました。

消費者ローン残高・住宅ローン残高



消費者ローン残高は、住宅ローンが増加したことなどから前年同期比46億円増加し、2,611億円となりました。

自己資本比率

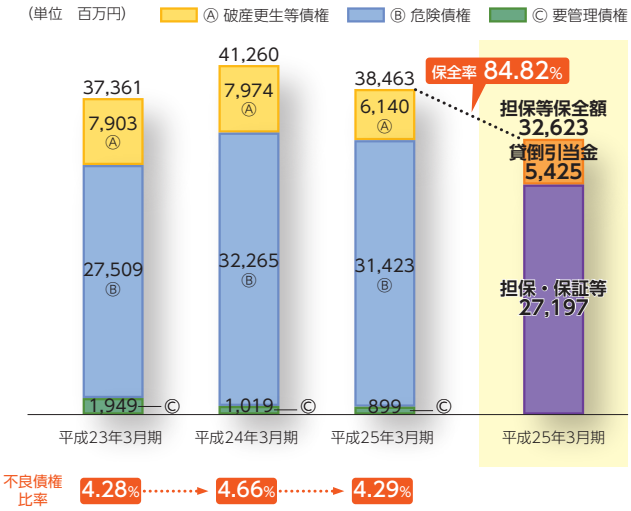


自己資本比率は、劣後債の償還などにより単体・連結ともに前年同期比0.92ポイント低下し、単体が11.42%、連結が11.45%となりました。国内基準の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。
自己資本のうち基本的項目だけで計算した単体のTier1比率は9.53%であり、引き続き十分な水準を維持しております。

自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。
当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

不良債権の状況



金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比28億円減少の384億円で、総与信額に占める割合は4.29%となりました。
開示債権額のうち84.82%を担保等でカバーしており、保全状況は十分な水準にあります。

損益の状況

（単位　百万円）

	平成24年3月期	平成25年3月期	増減
業務粗利益	19,615	18,558	▲ 1,057
（資金利益）	(18,988)	(17,952)	(▲ 1,036)
（役務取引等利益）	(403)	(464)	(61)
（国債等債券関係損益）	(194)	(103)	(▲ 91)
経費	14,159	14,059	▲ 100
一般貸倒引当金繰入額	▲ 1,046	▲ 743	303
業務純益	6,502	5,242	▲ 1,260
（コア業務純益）	(5,261)	(4,395)	(▲ 866)
不良債権処理額	3,727	2,584	▲ 1,143
株式等関係損益	▲ 173	▲ 21	152
経常利益	2,621	2,622	1
当期純利益	1,519	1,585	66

業務純益 ＝ 業務粗利益 － 経費 － 一般貸倒引当金繰入額

コア業務純益 ＝ 業務純益 ＋ 一般貸倒引当金繰入額 － 国債等債券関係損益

<前年同期との比較>

■コア業務純益

役務取引等利益の増加や経費の減少といった増益要因はありましたが、資金利益が減少し、8億66百万円の減益となりました。

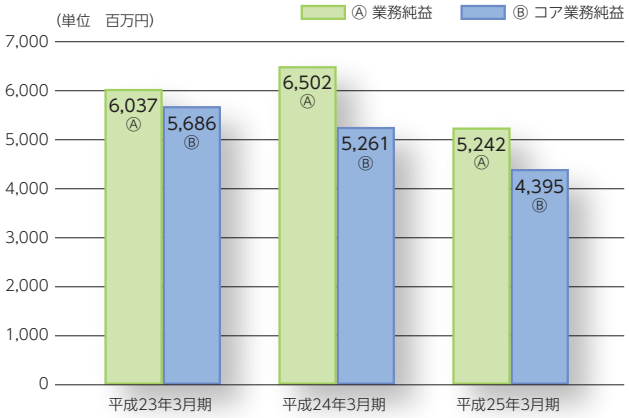
■経常利益

不良債権処理額の減少や株式等関係損益の改善などにより、1百万円の増益となりました。

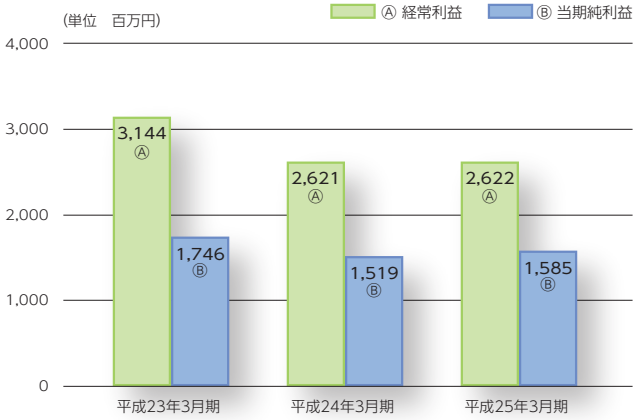
■当期純利益

法人税等調整額を含めた税金費用の減少などにより、66百万円の増益となりました。

業務純益・コア業務純益



経常利益・当期純利益



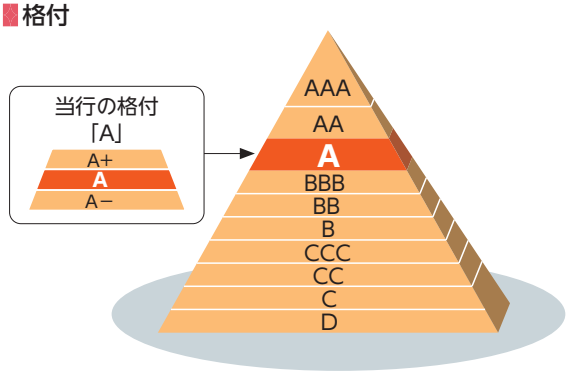
有価証券の評価損益

（単位　百万円）

	平成24年3月期	平成25年3月期	増減
満期保有目的	▲ 1,096	▲ 240	856
その他有価証券	5,079	14,208	9,129
株式	1,034	2,531	1,497
債券	5,162	6,941	1,779
その他	▲ 1,117	4,735	5,852
合計	3,982	13,967	9,985

有価証券全体の評価損益は139億67百万円となり、前年同期比99億85百万円増加しました。

格付



当行は、公正な格付機関である株式会社日本格付研究所（JCR）より格付を取得しています。

○格付　：「A」（シングルAフラット）

○格付の種類：長期優先債務格付

※「A」評価とは債務履行の確実性が高く、格付機関の格付20ランク中上位6番目にあたります。

※長期優先債務格付とは、債務者（発行体）の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。